

Title	濟南事變ニ於ケル戰傷患 二就テ (其一)
Author(s)	村上, 徳治
Citation	日本外科宝函 (1929), 6(2): 611-619
Issue Date	1929-03-20
URL	http://hdl.handle.net/2433/200347
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

濟南事變ニ於ケル戰傷患者ニ就テ(其一)

第二十七回近畿外科集談會特別講演

陸軍軍醫學校
教官

醫學博士 村上 德治

一、緒言

外科學ノ歴史ヲ辿ツテ見ルト古來、戰爭ニ依ツテ進步發達ヲ遂ゲタ點ガ尠クナイ。輓近、歐洲大戰以來或ハ創傷療法ニ或ハ胸腔外科ニ其他種々ナル點ニ就テ如何ニ其治療方針ガ變ツタカトイフコトハ今更言ヲ弄スル迄モナイ。

抑々戰爭ナルモノハ一旦勃發シタカラニハ、勝利ヲ以テ目的トスル。有ラユル手段ヲ盡シテデモ、勝タナケレバナラナイ。故ニ戰時ハ事情ノ許ス限り、其時代ニ於ケル最新ノ兵器ヲ利用シ、最モ優秀ナル戰法ヲ直チニ實行スル。軍陣外科終局ノ目的モ亦最良ノ治療法ヲ以テ戰時傷者ヲ可及の速カニ處置シ、再ビ之ヲ戰線ニ立タシムルニアル。平時徐ロニ研究シ、考察セラレタル事實ハ戰時ニ於テ更ニ大量的ニ試練セラレル爲メニ其時代ニ相應ハシイ斷定ト結論ヲ與ヘラレルモノデアアル。一例ヲ舉ゲテ見ルト、射創ニ對スル一般治療方針ハ、日清戰爭當時迄ハ之ヲ感染創トシテ取り扱ヒ極端ナル防腐法 (Antisepsis) ヲ施シタル事モアツタガ、日露戰爭當時ニ於テハ射創ハ非感染創トシテ取扱ヒ專ラ無腐法 (Asepsis) ヲ以テ處置セラレタ。然ルニ歐洲大戰以來再ビ射創ハ感染創ト見做シテ取扱フベキモノナリトサレルヤウニナツタ。斯ノ如ク轉々トシテ變化極マリ無キ治療方針ハ、サラバ矛盾ナリヤトイフニ、敢テ然ルベキモノデモナイ。夫レ夫レニ其時代ニ於テ最モ適應セルモノデアツタノデアアル。即チ西南戰爭ハ言ハズモガナ、日清戰爭頃迄ハ彈丸ハ太イ蛋頭彈デアツテ斯ル彈丸ニ由ツテ受ケタル傷ハ大キク、且ツ皮服片等ヲ體內ニ持チ込ムコトガ多イ爲メニ、大概化膿シタノデアアル。之ニ反シテ日露戰爭當時ニ於ケル彈丸ハ、前端ノ尖ツタ細長イ尖圭彈ニ變ツタノデ、受ケタ傷ハ小サク一般ニ化膿スルコトガ稀

デアツタノデアル。然ルニ歐洲大戰後又モヤ射創ヲ感染創ト見倣スベシトナシタコトハ、亦一段ノ進歩ト稱スベク何等ノ矛盾ヲモ見出スコトガ出來ナイノデアル。ソハ單ニ戰術兵器ノ變遷ヨリ考察シタルノミニ非ズシテ、更ニ幾多ノ經驗ト實驗トヲ重ネテ得タル賜デアル。由來、銃口ヲ離レタル彈丸ハ、比較的無菌ニ近キモノデアルガ被服及皮膚ヲ貫ク間ニ著シク汚染セラル、モノデアルトイフコトガ、實驗ニ依ツテ如實ニ露サレタ。Proning, Minors 等ノ調査ニ依レバ軍服ニハ瓦斯壞疽ノ原因トモナル *Bacillus perfringens* ガ其ノ八〇%、或ハ九〇%ニ證明サレタ。又跳彈トシテ一旦地ヲ擦メテ飛ビ來ツタ彈丸ハ、不潔ナル土塊、糞便ノ附着ニ由ツテ夥シク細菌ヲ體內ニ持チ込ミ、就中瓦斯壞疽ヤ破傷風等ヲ起シテ治療上ニ慘憺タル打撃ヲ與ヘタ。斯クテ實驗ハ確信ヲ萌シ、經驗ハ冥々ノ中ニ實行ヘ向ツテ進出シテ行ツタノデアル。

遮莫、軍陣外科學ハ常ニ一般外科學ニ依ツテ教ヘラル、所ガ尠クナイ。一般外科學モ亦軍陣外科學ニ依ツテ啓發サレルコトガアルノデアル。繚テ考フルニ、軍陣外科學ナルモノガ如何ニ閑却サレテ居ルカ。悲シイ哉、現今我國ニ於テハ、一般的ニハ其存在ヲスラ認メラレテ居ラナイヤウデアル。ソハ戰爭ナルモノハ甚ダ稀有ニ行ハル、出來事デアツテ、軍陣外科學ハ平時ニ於テハ其應用ノ範圍甚ダ尠シト認メラル、ニ基ヅクノデアラウガ、吾人ハ亦一旦ノ緩急ニ應ズルノ覺悟ガナクテハナラス。惟フニ、戰爭ハ國ヲ舉ツテノ出來事デアル。時アツテハ大學敎授ト雖モ戰鬪ニ立タネバナラヌコトガアル。ソレハ國民ノ義務デアルカラトイフノデハナクテ、寧ロ祖國ノ爲メニ自ラ進ンデ出ヅルノ時デアル。歐洲大戰中獨逸ガ危急存亡ノ秋ニアタツテ如何ニ多クノ學者ガ戰爭ノ要路ニ立ツタカ。平時ハ蠶魚ノ如ク萬卷ノ書籍ヲ讀破スルニ暇ナキ碩學大家モ一度ビ戰ニ立テバ勇敢ナル闘士トナツテ日ゴロ蘊著セル學理ヲ應用シテ自由自在ニ其妙技ヲ振ツタノデアル。Archer 敎授等ハ軍醫監トシテ大イニ活動シタトイフ。サレバコソ獨逸軍陣醫學ニ關スル幾多ノ業績モ亦彼等ノ手ニ依ツテ大成シテオルノデアル。余ハ此意味ニ於テ曩キニ濟南事變ニ於テ經驗セル僅カナル業績ヲモ顧ミズ。之ヲ縷述スベク慙慙セラレタル恩師鳥瀉敎授ニ對シ滿腔ノ敬意ヲ表スルモノデアル。本稿ハ勿論深淵ナル學理ヲ論ジテ大方

諸兄ニ問ハンガ爲メニ草シタルモノニ非ズ、既ニ周知ノ事實ヲモ説述シ、更ニ今回ノ經驗ヲ補遺シ、以テ軍陣外科ニ對シ一瞥ヲ惜マザルノ士ニ向ツテ御教示ヲ給ハリ、進ンデハ我が軍陣外科學ノ爲メニ研究ノ勞ヲトラレンコトヲ請フモノデアル。

二、戰傷ノ統計的觀察

濟南事變ハ彼此互ニ豫期セザル突發ノ事件デアツテ、其規模ノ小ナル點ニ於テ、將亦敵味方ノ事情及勢力ガ特殊ノ狀況ニアリシ點ニ於テ之ヲ一ツノ戰爭ト見做スコトハ、アマリニ大袈裟デアツテ、從ツテ該事變ニ係ハル統計ハ動モスレバ一般ノ規準ヲ脫セルカノ如ク思ハレル。トコロガ今回ノ戰傷ニ就テ之ヲ統計的ニ觀察シテ古來ノ戰役ノソレト比較シテ見ルト、オホヨソ其ノ傾向ヲ一ツニシ、之ヲ大キナ戰爭ノ縮圖ト見做シテモ強チ無理デハナカラウトイフヤウナ氣ガスル。

戰傷患者ハ總テ二五六名、内戰死者四一名戰死者ト傷者トノ比例ハ一對五・二ニ當リ、日清戰ノ一對四、日露戰ノ一對三・二、日獨戰ノ一對三・七等ニ比シ戰死率ハ小デアル。之ヲ表示スレバ次ノヤウデアル。

戰役	戰死	戰傷	合計
日清戰爭	九七七	三、九七三	四、九五〇
日露戰爭	四六、四二二	一五三、六二三	二〇〇、〇四六
日獨戰爭	四〇八	一、五二一	一、九二九
濟南事變	四一	二一五	二五六

一般ニ戰死率ナルモノハ戰鬪ノ激烈ナル時死者ノ率ガ大トナルノガ普通デアツテ從ツテ戰鬪ノ種類、地形ノ關係等ニモ依ルガ敵味方ノ敵愾態度並ニ國民性ニ依ツテ影響サレルモノデアル。濟南事變ニハ概シテ皇軍ハ攻撃的態度ニアリ、敵ハ防禦的位置ニアツタ。主トシテ城壁攻撃ニヨル要塞戰デアツテ、其爲メニ發生シ收容サレタ傷者ハ一三七名、商埠

地市街戰ニ依ルモノ三六名、黨家庄其他ノ野外戰ニ依ルモノ二六名、其他便衣隊ノ狙撃ニ依ルモノガ一六名デアル。各隊ハ其任務及向フ所ヲ別トシタル爲メ傷者發生率ニ著シキ差ヲ生ジテオルコトハ次ノ表ノ示ス通りデアル。

部 隊 別		收容數	死亡數(收容後)	部 隊 別		收容數	死亡數(收容後)
步兵第四十七聯隊(大分)		三七	二	步兵第十三聯隊(熊本)		一七	二
步兵第四十五聯隊(鹿児島)		六	〇	步兵第十五聯隊(高崎)		二〇	一
歩兵第二十三聯隊(都城)		二〇	二	歩兵第五十聯隊(松本)		九一	一三
天津歩兵隊		一一	一	工兵中隊		五	〇
自動車班		四	〇	野砲第六聯隊		三	〇
飛行隊		一	〇	計		二二五	二一

又戰傷ノ種類カラ言ヘバ、迫撃砲及手榴彈ニ依ル爆彈破片創ヲ最多トシ、銃創之レニ次ギ、各戰役ト比較シテミルト最近ニ至ルニ從ヒ銃創ヨリモ爆彈又ハ砲彈破片創ガ多クナリツ、アル傾向ト一致シテ居ル。即チ兩者ノ發生率ハ日清戰ニ於テハ八八%ト九%、日露戰ニ於テハ八〇%ト一七%ナリシモノガ日獨戰ニ於テハ三七%ト五一%トナツタヤウニ後者ノ發生率ガ大クナツタ。コレハ戰術ノ變化ト共ニ要塞戰ガ行ハル、コトガ多クナツタコトニ原因シテ居ルノデアル。今回ノ戰傷種類別ヲ收容患者ニ就キテ調査シタルニ次ノ如キ結果ヲ得タノデアル。

種類別	實數	百分比	種類別	實數	百分比
銃創	九八	四五・六%	爆彈破片創	一〇一	四六・九%
刺創	五	二・三%	爆傷	一	〇・四%
打撲傷	一三	六・〇%	捻挫	三	一・四%
計	二二五	一〇〇%			

更ニ戰傷部位ニ就テ調査シテミルト四肢及頭部ガ最も多數デアル事ハ、今回ト雖モ從來ト變リガナイ。頭部受傷者ハ其腦損傷ヲ受ケタル者ハ多クハ即死スルノデ收容者ノミニ就テ統計ヲトル時ハ率ガカナリ減ズルノハ當然デアツテ、之ヲ死者ノミニ就テ調べテミルト最大多數ヲ示シテオルノデアアル。凡ソ銃創患者ニ於テハ部位一ヶ所ナルモノヲ多シトスルケレドモ爆彈破片創ニ於テハ必ズシモ然ラズシテ中ニハ全身各部ニ大小無數ノ創ヲ受ケテ居ル者ガアル。戰傷部位別比例ヲ收容患者ニ就テ記載シテ見ルト次ノ通りデアアル。

受傷部位	實數	百分比	(日露戰)	受傷部位	實數	百分比	(日戰露)
頭部及顔面	四六	一八・四%	(一九%)	頸部	一二	四・九%	(二%)
胸部	三五	一四・一%	(一四%)	腹部	一三	五・二%	(八%)
上肢	六九	二七・九%	(三〇%)	骨盤及下肢	七二	二九・一%	(二七%)
計	二四七	一〇〇%					

最後ニ主ナル受傷組織及臟器ノ比例ヲ收容患者ニ就テ調査スレバ大約左表ノ如クデアアルガ該統計ハ必ズシモ正確ヲ得テ居ラナイ。何トナレバ其大部分ハ症候上ヨリ定メタモノデアツテ、勿論一々解剖シタノデモナケレバ又切開シテ見タワケデモナイカラ。茲ニ皮膚及軟部トアルハ該組織ノミニ留マリシモノデアツテ、他臟器ノ胃サレタルモノヲ含ンデオラナイ。又筋、血管及神經ハ殊ニソノ爲メニ著明ノ症狀及障礙ヲ惹起シタルモノヲ舉ゲタノデアアル。

受傷組織及臟器	實數	百分比	受傷組織及臟器	實數	百分比
皮膚及軟部	一四一	六〇・二%	筋肉	四	一・七%
血管	四	一・七%	神經	一八	七・九%
骨	二〇	八・六%	關節	六	二・五%
腦	六	二・五%	脊髓	二	〇・八%

眼	六	二・五%	耳	三	一・二%
鼻	一	〇・四%	口	二	〇・八%
肺	一二	五・一%	心	一	〇・四%
胃	一	〇・四%	腸	三	一・二%
肝	二	〇・八%	陰莖及辜丸	二	〇・八%
計	二三四	一〇〇%			

以上ハ戰傷患者ニ就テノ統計ノ大要デアルガ、ナホ此他戰傷ニ繼發シタ創傷傳染病ガアル。其中デ主ナルモノヲ舉ゲテミルト瓦斯壞疽ガ五例ト破傷風ガ六例アツタ。即チ之ヲ全員ニ就テ百分率ヲ以テ示ス時ハ、前者ガ二・三、後者ガ二・七%デアツテ從來ノ戰役ノソレニ比シ著シク増加シテ居ルコトハ次ノ表ニヨツテ知ルコトガ出來ル。

病 別	日露戰	日獨戰	歐洲戰	濟南變
瓦斯壞疽	〇・一七%	〇・二六%	〇・五%(獨)	二・三%
破 傷 風	〇・一五%	〇・九五%	〇・三六%(獨)	二・七%

三、敵軍ノ使用セシ兵器

戰傷ト最モ深イ關係ヲ持ツテ居ルモノハ兵器デアル。敵軍ノ使用シタル兵器ハ實ニ區々デアツテ、各國各種ノモノヲ使用シ、南軍特有ノ兵器ト見做スベキモノハナカツタ。尤モ、濟南ニハ山東兵工廠ト言ツテ日本ニ於ケル砲兵工廠ノ如キモノガアリ、山東省督辦デアツタ張宗昌ガ外人ノ技師ヲ雇ヒ、最近ニ至ルマデ此ノ工場ヲ運轉サセテ居ツタモノデ、彈丸仕上工場、火砲工場、小銃彈工場等夫レ夫レニ立派ナ仕掛ケガ出來テ居ツタ。併シナガラ製作セラレタル兵器ハ民國全般ニ統一サレタモノデナク、主トシテ自己配下ノ軍隊ニ使用シタルニ過ギナイノデアル。ノミナラズ兵器ノ多クハ外國ヨリ買收シタモノナノデアル。元來支那ノ軍隊ハ行軍間駐屯セル地ニ於テ、兵ヲ徵發スルノガ習慣トナツテオルタメニ、此

ノ微發兵ノ所持シテオル武器ニハ有合セノモノモアリ、中ニハ武器ヲ持タナイ兵モ澤山居ルトイフ有様デアル。茲ニハ敵軍ヨリ押收シタル兵器及我軍ノ受ケタ射創患者ヨリ剔出セル留彈等ニ就テ調査シテ見ルト、オホヨソ左記ノ如キモノデアルコトガワカル。

小銃ニハ其形式一定セズ、口徑種々雜多ニシテ且ツ新品尠ク、中ニハ全ク用ヲナサヌヤウナモノガアツタガ、又極メテ新シク其銃身ガ二重トナツテオル獨逸最新式ノモノモ見出サレタ。小銃彈ニハ日露獨佛ノモノヲ明カニ區別スルコトガ出來タ。例ヘバ余ノ調査セル二、三ヲ舉グレバ

(一)、三八式小銃彈(長サ三二・五密米、直徑六・六五密米ヲ正式トスル)。

長サ三二・八密米、徑六・五密米ノ尖形被甲彈ヲ發見。

(二)、露式小銃彈

長サ三一・〇密米、徑七・八密米ノ蛋頭被甲彈ヲ發見。

(三)、佛式D彈(一九〇三年佛國ノ案出採用シタル葉卷煙草形ノ小銃彈デアツテ、其長サ三九・二密米徑八・二密米)。

長サ三四・五密米、徑八・五密米葉卷煙草形尖圭被甲彈ヲ發見。

(四)、獨式S彈(一九〇四年獨逸ガ佛式D彈ニ倣ツテ案出シタモノデ徑七・九密米ヲ有スル尖圭被甲彈)

長サ二八・二密米、徑八・一密米ノ尖圭被甲彈、及長サ二八・五密米、徑八・二密米、尖圭被甲彈等ヲ發見。

其他米式伊式等ト思ハレタルモノモ、發見サレテオルケレドモ區別ガツカナイ。只茲ニ北洋トイフ文字ヲ藥莢ノ底面ニ入レテアルモノガアツタガコレハ恐ラク民國特有ノモノデアラウ。其彈丸ノ長サ三一密米、徑八密。其他太クテ短カイ鉛彈ガ多數ニ發見サレタ。其長サ二七・二密米徑一一・〇密デ長サ徑ハ皆多少異ツテ居ル。此彈丸ハ獵銃彈デアラルシイ。猛獵狩ニ用ユル彈丸デアルトイフ。其他「ダムダム」彈(Dumdum)ガ少數發見サレタ。其ノ一ツハ彈丸ノ尖端ノ周圍ニ鉛ヲ張ツテアルモノデ彈丸ガ衝著スルト鉛ガ傘ノヤウニ開クモノ、今一ツハ鉛ヲ心トセル蛋頭被甲彈ノ尖端ヲ切り去ツテ

中カラ鉛ガ露出シテオルモノデアアル。スベテ「ダムダム」彈ハ甚ダ慘酷ナル創ヲ作ルノデ、文明國間ノ交戦ニハ用ユルコトヲ禁止シテアル。

次ニ拳銃ハ殊ニ便衣隊ナルモノガ常ニ懷中ニ忍バセテオルノデアアルガ、押收品ノ中ニハ左ノモノガ發見サレタ。

- (一)、廿六年式拳銃。十六個發見。
- (二)、卅八年式拳銃。約五十個發見。
- (三)、南部式拳銃。二個發見。
- (四)、モーゼル式拳銃。大、中、小アリ。
- (五)、ブローニング式拳銃。

機關銃ニハ左ノ如キモノガ發見サレタガ、説明ハ省略スルコトニスル。

- (一)、佛「エチネン」機關銃
- (二)、獨「マキシム」機關銃
- (三)、獨「マキシム」機關銃
- (四)、「マドセン」輕機關銃

火炮ハアマリ用ヒナカツタヤウデアアルガ我軍ガ礮源門ヲ占領シタ後、千佛山トイフ高地ノ方面カラ飛來ツタ砲彈デ十名許ノ負傷者ヲ出シタコトガアル。押收品ノ中ニハ「クルツプ」型民國野砲ナルモノガアリ、日本製ノ火炮二門、歩兵砲三門發見サレタ。

以上種々ナル兵器ヲ列舉シタガ、我軍ニ最モ打撃ヲ與ヘタモノハ特種火兵ニ屬スル迫撃砲ト手榴彈トデアツタ。押收品中ニハ獨式、佛式ノ迫撃砲ガアリ、「ストツクモーター」型迫撃砲及彈丸ガ發見サレテオル。從來迫撃砲ハ近接戦ニ於テ常

ニ使用サレル一種ノ火砲デアツテ、徑約一〇糎ノ彈丸ヲ發射スルモノデアル。手榴彈モ近接戰ニ於テノミ使用サレルモノデ、元來ハ手デ投ゲツケル小榴彈デアル。コレガ地ニ落下スルト爆破シ、大小無數ノ破片トナツテ、飛散スルノデアル。南軍ノ使用セシモノニハオホヨソ五種類ホドデアツテ、日本製ノモノハ一個モ發見サレナカッタ。コレニハ二様ノ使用法ガアリ、一ツハ手擲用デ紐ガ附イテオリ、此紐ヲモツテ振りマハシテ擲ゲル。今一ツハ擲彈銃用彈丸デアツテ、砲デ射チ出スノデアル。コレニハ種々ナル形ノモノガアルガドレニモ柄ガ附イテオルノデアル。

攻撃用武器トシテ、其他刀劔及槍ガ發見サレ、其種類ハ又一様デナイ。中ニモ青龍刀ハ其形、大サ、夫レ夫レ異ツテ居ル。

防禦用武器トシテハ少數ノ防彈衣ヲ發見シタ。ソレハ「ヅツク」ニテ作ラレ厚サ一寸許リノモノデアル。其他少數ノ鐵兜ヲ發見シタ。